

闘いへの結集を



年頭に当たり、三池労組の組合員並びに家族の皆様のご挨拶を申し上げます。今後とも、難題の解決に御協力をお願いします。

新年おめでとうございます。永年にわたる皆様のご支援に返ってまいります。米・米騒動の高まり、軍拡競争の激化が、

石炭政策確立 のために全力を

参議院副議長 阿具根登

わが国では、中曽根内閣による石炭化の波は大きなうねりをもち、国民の不安をかきたててまいりました。

また、政府が最大の政治課題として、田中主導の中曽根内閣として取り上げている行革や財政再建は結果として行革デフレを起し、福祉を切り捨て、税や保険料の増加など、国民に多大の負担をもちました。

十月十二日の田中有罪判決を機として、

閣は政治倫理問題で行き詰った末に解散、十二月総選挙となりました。この総選挙の焦点は、いままでもなく政治倫理と金権腐敗政治の是非で、与野党が国民に勝利を求めた総選挙でした。

その結果、国民は与・野党伯仲の国会を選びました。

この総選挙で、三池労組の組合員並びに家族の皆様をはじめ関係者の尽力により、多賀谷真穂議員が返り咲いたのは、炭政政局全議員当選を果たすことができたことを心から深く感謝申し上げます。

一九八四年を共に前進していく状況であります。石炭産業も依然としてきびしい情勢にあります。石炭産業の存続、炭鉱労働者の安全を守るため、昨年閉山した夕張新鉱の敷設を生かし、炭鉱の安全と国内炭のあり方を大前提とした石炭政策の確立を急がなければなりません。私はそのために全力をかける所存であります。

最後に、働く人達が安心してくらしを営むような社会づくりのため、皆様と共に行動していきたく考えています。



三池大災害20周年抗議集会
であいさつする佐伯先生

一九八四年を 勝利のために

三池CO裁判
弁護団団長 佐伯静治

三池の組合員の皆さん、原告の皆さん、あけましておめでとうございます。

一九八四年が皆さんにいい年であり、また心からお祈り申し上げます。しかしこの二十年來、皆さんは心から新年おめでとうといふことが出来なかったのではないのでしょうか。裁判に勝つまではほんとうのおめでたうはないというのが、その思いだと思います。

長かったCO裁判も、おそろしく今年中には結審の運びになると思っております。

私は昨年十一月九日のCO闘争二十周年の集会に参加させていただき、大災害から早くも二十年たったのかという感慨をもち、それでもなお

前の会場に満ちた気迫に、いままでたたかいた中にあるのだというところを、文字どおり体と心を受けとめました。

会場には、退職者の方々から各地の若い活動家まで、全国から多くの方々に参加しておられました。三池争議から二十三年たったことに、この集会にこのような参加者があるというところは、この争いが、全国の多くの人々のたたかいたことになっているということであらうと感じた次第です。それは、労働者の命と健康を資本から守るための根拠をたたかいたからだと思います。

三池のたたかいた支持し、ともにたたかってくれている多くの人たちに、われわれは何をお返ししたらいいか。そのために、労働者の命を守るための最高の法律論と事実の発掘とを心がけて、努力を重ねる以外にないと思っております。そうして近い将来に、心からおめでたうと年賀を申し上げる正月がくることを期待します。



三池大災害20周年抗議集会
であいさつする金子先生

労災・職業病 闘争の原点を

都立松沢病院
副院長 金子嗣郎

あけましておめでとうございます。やはり逃げねばならない重要なことだと思います。

去年の十一月九日の三池大災害二十周年抗議集会でも提案しましたように、今年こそ「三池CO記念資料館」建設のために、具体的な運動を起そうと対立が根拠のないものであることを示し、三池のCO闘争の歴史を明らかにし、労災、職業病闘争の原点を示そうではありませんか。

被災者の遺品、写真その他の資料、医学的記録、裁判の資料などを合わせて集め、点検整理をしたいと思っております。

容易な仕事ではないでしょうが、

国民参加による ふるさとづくり

福岡県知事 奥田八一



新年おめでとうございます。新年を迎えて、まず思うことは、県民のみなさんが心から自慢できるふるさとをつくることです。

私は知事就任以来、婦人一日庁議やふるさと対話など、県民のみなさんと積極的に話し合いの場をつくって参りました。そのなかで出された諸問題、とくに青少年の非行化、老人や身体障害者などの

福祉問題、交通事故対策やガン対策など緊急に解決を要する課題について、県民のみなさんと力を合わせて全力投球して参りたいと思っています。

また、「二十一世紀を目指した長期展望の策定」に着手していますが、県民の英知を結集して県民のみなさんとともに実りあるものに仕上げなければなりません。

県民に開かれた県民参加の県政をモットーに、平和で住みやすいふるさとづくりに向け全力を傾注して参りたいと思っています。

新しい年を迎え、郷土福岡の発展に胸をふくらませ、新年のごあいさついたします。

生命と生活 平和のために

主婦会会長 平川弘子



しや平和を守る重要なたたかいたこと、全員で総力を結集し、取り締まりを強め、私たちは炭鉱労働者と家族にとつて忘れることのできない一昨年発足した中曽根反動内閣は、老人保健法の改悪や健康保険の二割本人負担、年金の改悪などおしなご福祉の後退をはじめ、教育制度の手おしなど、行政改革を押し進め、勤労国民に多くの犠牲を強いるなかで、憲法改悪を頂点とする軍事費突出の予算を組み、平等なし平等なくして平和な生活を築くために『平和なくして平和を築く』を肝に銘じ、主婦会運動の輪を拡げていくことを年頭に当たっての決意といたします。

このようなか、昨年七月十日の三池労組の皆さん、全国の仲間を代表して、福岡県では奥田知事を迎え、主婦会結成三十周年記念集會を開き、運動の原点をたたく歴史にまなごをもち、組織をお願ひ申し上げます。

三池労組の皆さん、全国の仲間を代表して、福岡県では奥田知事を迎え、主婦会結成三十周年記念集會を開き、運動の原点をたたく歴史にまなごをもち、組織をお願ひ申し上げます。